



廣池千九郎、49歳当時

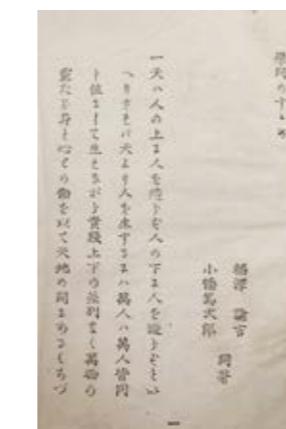
偉人たちの智慧に出会う。
城下町中津が生んだ
偉人たちの智慧に出会う。

03 FILE

近 代 中 津 の 偉 人 と 廣 池 千 九 郎

城下町中津から輩出された、
先進の気風を備えた人物たち。
大分県の北部に位置する城下町中津は、様々な
分野で活躍した多くの偉人たちを輩出してきました。
した。とくに近代以降は、慶應義塾を創設した福澤諭吉をはじめとし、福澤を補佐し『学問のすゝめ』の共著者となつた小幡篤次郎、「慶應義塾仮憲法」制定後の初代塾長を務めた濱野定四郎、教育者、歴史学者、法学者、(道徳科学)の提唱者として知られる廣池千九郎など、わが国の教育史に足跡を残した優れた人材が次々と現れています。また、美術の分野でも、明治初期の油彩画を学んだ後フランスに渡った諫山麗吉や初期洋画の指導者としても活躍した吉田嘉三郎ら、先進の気風を備えた人物たちが登場しました。

大分県ゆかりの芸術家や学者たちの生涯と業績を広く県民に紹介する「おおいた温故知新」では、こうした近代中津の偉人たちを取り上げ、その業績を紹介します。なかでも、廣池千九郎を特別に取り上げ、公益財団法人モラロジー研究所の協力のもと、廣池と親交のあった人物たちの資料も交えながら、より詳細に紹介します。



福澤諭吉、小幡篤次郎
『学問のすゝめ』(初版本)
明治5年(1872年)刊
中津市歴史民俗資料館蔵

おおいた
温故知新

2016
大分の先人たちの
知性と感性に学ぶ

2016

大分の先人たちの
知性と感性に学ぶ

大分県立美術館で 春に出会い、
知に触れよう。

2016コレクション展VI「春を言祝ぐ」

2017年 2月3日|金|-4月4日|火|

大分県立美術館 3階 コレクション展示室

【前期】2月3日[金]-2月28日[火] 【後期】3月2日[木]-4月4日[火]

【開館時間】10:00-19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

【観覧料】一般300(250)円 大学生・高校生200(150)円

◎3月1日(水)は展示替えのため休館 ◎作品は一部展示替えを行います 中学生以下は無料

※()内は20名以上の团体料金 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※大分県芸術文化友の会びとKOTOBUKI-TAKASAGO無料、UME团体料金 ※障がい者手帳等をご提示の方とその付添人(1名)は無料

ギャラリー・トーク開催 予約不要・要展覧会観覧券

2月12日(日)/2月26日(日)/3月12日(日)/3月26日(日) 13:30-14:30



高山辰雄《友達》昭和19年(1944年) 福田平八郎《白梅》昭和35年頃(1960年頃)

「雛人形の歴史と魅力」

日時:2月11日(土・祝) 13:30-15:30

会場:大分県立美術館 2階 研修室

講師:林直輝氏[吉徳資料室室長]
田中正流氏[平等院ミュージアム鳳翔館学芸員]

OPAMミュージック・イン・ミュージアム 2017 Vol.12

「お琴の音色でいざなう春～おひなさまとともに～」

日時:3月12日(日) 11:00~14:00(各30分) 出演:菊珠三奈子氏(箏)

会場:大分県立美術館 1階 アトリウム 賛助出演:羽田野逢山氏(尺八)

おひな人形司の雛人形 特別初公開

山川永徳斎(初代)《御殿舞》(部分)
明治20年頃(1887年頃)



御殿
飾りの幅
3.6m



大分県立美術館 〒870-0036 大分市寿町2番1号
TEL 097-533-4500 FAX 097-533-4567 http://www.opam.jp
JR大分駅内中央(北口)から徒歩15分/大分ICから車で10分

大分県芸術文化友の会
MEMBERSHIP
メンバーモニターメンバー募集!



企画
趣旨
2016
大分の先人たちの
知性と感性に学ぶ

「県民とともに成長する劇場と美術館」

中世以降の日本の歴史の中で活躍した大分県ゆかりの芸術家や学者の生涯、業績、作品を、県民のみなさまの創造を募りながら、iichiko総合文化センターと大分県立美術館の共同自主事業や民間団体

びびとは、大分県立美術館と iichiko 総合文化センターを中心に大分県の芸術・文化を多くのみなさんに楽しんで、そして広げてもらおうためのメンバーシップです。
詳しくは <http://www.opam.jp/bivi>

および行政機関との共催企画の形で紹介する企画です。第3弾は近代中津の偉人たちをご紹介します。

協力: 公益財団法人モラロジー研究所 後援: 大分合同新聞社 TOSテレビ大分

発行: 2017年2月発行 公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団 〒870-0029 大分県大分市高砂町2-33 TEL 097-533-4025 FAX 097-533-4050

優れた教育者、歴史学者、翻訳家、芸術家などの偉人たちを輩出。

豊前国中津藩士の次男として中津城下に生まれる。はじめ藩校進修館に学び塾長となるが、一八六四年福澤諭吉の勧めで江戸の洋画塾・彰技堂に入門。一八七七年の第一回内国勧業博覧会で褒状を受賞。一八八〇年頃清国に渡り、数年上海に滞留したのちロンドンを経て一八九二年頃パリに至る。パリでは肖像画や花鳥図などの日本画を手がけたようである。晩年は病を得、パリに客死した。

伊予宇和島藩主・伊達宗城の四男として生まれ、のち奥平昌服の養子となり、豊前中津藩の最後(第九代)の藩王となる。

リカへ留学。一八八〇年東京府会議員となり、翌年東京府会議員にも選出された。

近代の中津は多士済々！

福澤 諭吉

ふくざわ ゆきち (1835-1901)

豊前国中津藩士の次男として大坂の中津藩蔵屋敷に生まれる。幼くして父と死別し中津に帰郷。はじめ地元の儒学者白石照山に入門。ち緒方洪庵に蘭学を学び、さらに英語を修得する。一八五八年には藩命により江戸の中津藩中屋敷に蘭学塾を開塾。一八六〇年「咸臨丸」に乗り込み渡米。以後、ヨーロッパ諸国も歴訪。慶應義塾を創設したほか、「西洋事情」「学問のすゝめ」「文明論之概略」などを続々と著し、当時の日本人に西洋文明の精神を伝えた。



福澤諭吉『書幅「独立自尊」』明治時代
公益財団法人 福澤旧邸保存会 藏

諫山 麗吉

じさやま れいきち (1851-1906)

中津市に生まれる。一八七五年上京して国沢新九郎の洋画塾・彰技堂に入門。一八七七年の第一回内国勧業博覧会で褒状を受賞。一八八〇年頃清国に渡り、数年上海に滞留したのちロンドンを経て一八九二年頃パリに至る。パリでは肖像画や花鳥図などの日本画を手がけたようである。晩年は病を得、パリに客死した。



諫山麗吉『花鳥図』
明治36年(1903年)
大分県立美術館 藏

吉田 嘉三郎

よしだ かさぶろう (1861-1894)

中津市に生まれる。はじめ晴野鴻洲に日本画を、のち京都の田村宗立に洋画を学ぶ。さらに東京に出て本多錦吉郎の洋画塾・彰技堂に入門。一八八一年第二回内国勧業博覧会には県内からただ一人油彩画を出品した。やがて教員となり、中津中学や福岡県立中学修猷館で洋画を教えた。この間、明治美術会通常会員となり、数種の図画教科書を著している。

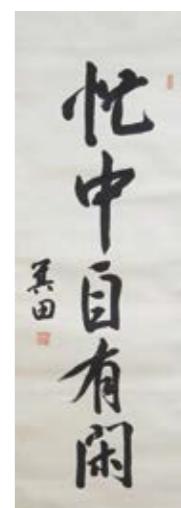


吉田嘉三郎『海魚図』明治時代初期
大分県立美術館 藏

小幡 篤次郎

おばた とくじら (1842-1905)

豊前国中津藩士の子として中津城下に生まれる。はじめ藩校進修館に学び塾長となるが、一八六四年福澤諭吉の勧めで江戸の洋画塾・彰技堂に入門。一八七七年の第一回内国勧業博覧会で褒状を受賞。一八九〇年慶應義塾の大学部設置にあたって塾長の任命とともに、貴族院議員にも選出された。



小幡篤次郎
『書幅「忙中自有閑」』
明治時代
公益財団法人 福澤旧邸保存会 藏

山田 秋坪

やまだ しゅうへい (1877-?)

豊前国中津藩士の子として中津城下に生まれる。秋深と号し画をよくした父の影響から、若くして画を志し、大阪に出て姫島竹外に師事。花鳥画に優れ、大阪画壇で活躍。昭和初年頃まで活動していたと思われる。



山田秋坪『紙雛図』
明治後期~昭和初期
中津市木村記念芸術館 藏

小野 桜山

おの おうざん (1854-1937)

豊前国中津藩士の子として中津城下に生まれる。一八六四年福澤諭吉の呼びかけに応じ、小幡篤次郎ら五名とともに江戸に出て入門。のち教員となり、中津市学校では小幡篤次郎の他の学校長を務め、慶應義塾では「慶應義塾憲法」制定後の初代塾長を務めた。日本に西洋の学問を伝えるため、イギリスの哲学者ハーバート・スペンサーの『政法哲学』をはじめ、多くの英語の書物を日本語訳した。



小野桜山『竹蘭図』
大正11年(1922年)

濱野 定四郎

はまの さだしろう (1845-1909)

豊前国中津藩士の子として中津城下に生まれる。一八六四年福澤諭吉の呼びかけに応じ、小幡篤次郎ら五名とともに江戸に出て入門。のち教員となり、中津市学校では小幡篤次郎の他の学校長を務め、慶應義塾では「慶應義塾憲法」制定後の初代塾長を務めた。日本に西洋の学問を伝えるため、イギリスの哲学者ハーバート・スペンサーの『政法哲学』をはじめ、多くの英語の書物を日本語訳した。

奥平 昌邁

おくだいら まさゆき (1855-1884)

伊予宇和島藩主・伊達宗城の四男として生まれ、のち奥平昌服の養子となり、豊前中津藩の最後(第九代)の藩王となる。

リカへ留学。一八八〇年東京府会議員となり、翌年東京府会議員にも選出された。



廣池 千九郎 (1866-1938)

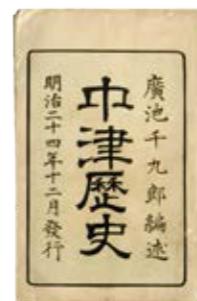
廣池千九郎は慶応二年(1866年)、現在の大分県中津市に農家の長男として生まれました。中津市学校を卒業後、十四歳で小学校の代用教員になり教育者として歩み始めます。十七歳の時、師範学校受験のため退職し、帆足万里の内、四分の一以上を編纂するなどの大きな貢献を果たしました。

一方、研究分野を東洋における法制史の研究に拡大し、早稲田大学で漢文法とともに講じました。

多彩な研究活動

廣池は京都で月刊誌『史学普及雑誌』を発行しながら歴史研究の実績を積みました。その後、わが国最大の百科史料事典『古事類苑』の編纂員に選ばれ二十九歳で上京、全一千巻の内、四分の一以上を編纂するなどの大きな貢献を果たしました。

一方、研究分野を東洋における法制史の研究に



廣池千九郎著『中津歴史』
明治24年(1891年)

モラロジー(道徳科学)の樹立

廣池は大正期より道徳の科学的研究に取り組み、その集大成として昭和三年に『道徳科学の論文』を刊行、総合人間学モラロジー(道徳科学)を提唱します。昭和六年には大阪毎日新聞社にて講演会を開催し、社会教育活動を本格的にスタートさせました。



廣池の生家。現在、廣池千九郎中津記念館として整備されている。

「道徳科学」の提唱者

人間の眞の幸福を「道徳」に見いだし、生涯教育活動の基礎を築いた

教育者。

教育者から歴史家へ

廣池千九郎は慶応二年(1866年)、現在の大分県中津市に農家の長男として生まれました。

中津市学校を卒業後、十四歳で小学校の代用教員になり教育者として歩み始めます。十七歳の時、師範学校受験のため退職し、帆足万里の内、四分の一以上を編纂するなどの大きな貢献を果たしました。

一方、研究分野を東洋における法制史の研究に

廣池千九郎とは

人間の眞の幸福を

「道徳」に見いだし、

生涯教育活動の

基礎を築いた

教育者。

教育者から歴史家へ

廣池千九郎は慶応二年(1866年)、現在の大分県中津市に農家の長男として生まれました。

中津市学校を卒業後、十四歳で小学校の代用教員になり教育者として歩み始めます。十七歳の時、師範学校受験のため退職し、帆足万里の内、四分の一以上を編纂するなどの大きな貢献を果たしました。

一方、研究分野を東洋における法制史の研究に



廣池千九郎著
『東洋法制史本論』
大正4年(1915年)

廣池千九郎『慈悲寛大自己反省』

廣池千九郎著『慈悲寛大自己反省』
大正6年(1917年)